



土川 博 議員

観光資源としての池田山とは



将来的に池田町の上高地？（大津谷公園）
延長が望まれる遊歩道

桜やもみじなどの観賞用の樹木を将来を見据えて植栽する中、霞間ヶ溪や、大津谷の山麓から山頂、さらには山頂から山麓へ戻る遊歩道を整備することにより、春は花見、夏はバーベキューや川遊び、秋は紅葉、冬は登山の名所となり、池田山及びふれあい街道一帯が四季を通じての観光名所とならないか。

町長

山道、作業道や林道をつなげて池田山を周回する遊歩道

として整備することも考えられる。池田山には、山麓も含めて観光の拠点となるものがあるのので、それを含めて山頂へのルートを周回するような形で考えたい。池田山は池田町のシンボルであり、岐阜県の飛騨、美濃観光「自慢の原石」に選ばれており、今後は、池田町の「宝」となるようにしたい。

池田山は観光、健康、環境などいろんな面で取り組むことが必要。

町長

従来からの観光名所に加え、ブルーベリーなどの観光農園、歴史的に価値ある場所の発掘、子供たちの学習の場としての整備など、新たな拠点となる箇所の中で、一体的に整備できないかと考える。池田山に対する夢を持ちながら、多くの方に来ていただけるような方策を立てたい。



建設中の“道の駅池田温泉”販売ブース

道の駅にはいろいろな役割があり、期待も大きいですが、トータル的に管理する体制はできているのか。

町長

駅長を公募するなか、道の駅設置条例の制定、定期的に開催する運営協議会の設置、

道の駅池田温泉の管理体制は

関係機関の連絡調整体制の確立をしたい。また、池田温泉の一角に駅長スペースを確保し、池田温泉と道の駅が連携して運営できるようにする。

情報発信基地としての考え方は

町長

池田温泉や道の駅でイベントを開催するなどして、特産品の販売と共に、郷土芸能の発表もしてもらう。また町内を散策するコースの設定、レンタルサイクルを置くなど、町内全体を見て回っていただけるようにしたい。